

平成11年 簡易生命表のポイント

1 平成11年の平均寿命は男女とも昨年を下回る。

平成11年の平均寿命は、男が77.10年、女が83.99年で、前年を男は0.06年、女は0.02年下回った。

男女差は6.89年と、前年より0.04年拡大した。

男女とも平均寿命が前年より下回ったが、これは主に肺炎による死亡率の増加が寿命を減少させる方向に働いたことによっている。

男女別平均寿命とその差

	平成11年	平成10年	延び
男	77.10年	77.16年	-0.06年
女	83.99年	84.01年	-0.02年
男女差	6.89年	6.85年	0.04年

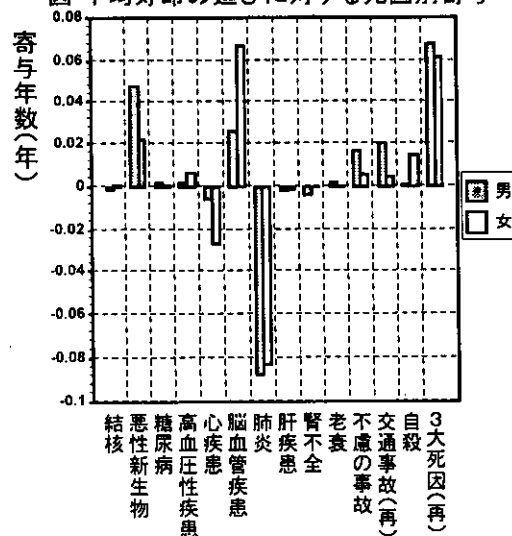
日本人の平均寿命と延びの推移

(単位:年)

	平均寿命		延び(対前年)		延び(5年平均)	
	男	女	男	女	男	女
*昭和60	74.78	80.48	0.24	0.30	0.27	0.32
61	75.23	80.93	0.45	0.45		
62	75.61	81.39	0.38	0.46		
63	75.54	81.30	-0.07	-0.09	0.13	0.24
平成元	75.91	81.77	0.37	0.47		
*2	75.92	81.90	0.01	0.13		
3	76.11	82.11	0.19	0.21	0.11	0.20
4	76.09	82.22	-0.02	0.11		
5	76.25	82.51	0.16	0.29		
6	76.57	82.98	0.32	0.47	0.11	0.20
*7	76.38	82.85	-0.19	-0.13		
8	77.01	83.59	0.63	0.74		
9	77.19	83.82	0.18	0.23	0.11	0.20
10	77.16	84.01	-0.03	0.19		
11	77.10	83.99	-0.06	-0.02		

注:*印は完全生命表、その他は簡易生命表による。

図 平均寿命の延びに対する死因別寄与



2 寿命中位数は男80.18年、女86.81年

平成11年簡易生命表によると、生まれた者のうち半数が生存すると期待される年数（寿命中位数）は男では80.18年、女では86.81年となっている。また、80歳まで生存すると予想される者の割合は男では50.6%、女では73.1%となっている。

3 3大死因による死亡確率は、男女とも5割以上

平成11年における死因別死亡確率（将来どの死因で死亡するかを示す割合）は、0歳の男女とも悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、肺炎の順になっている。0歳で前年と比較すると、男女とも順位は変わっていない。

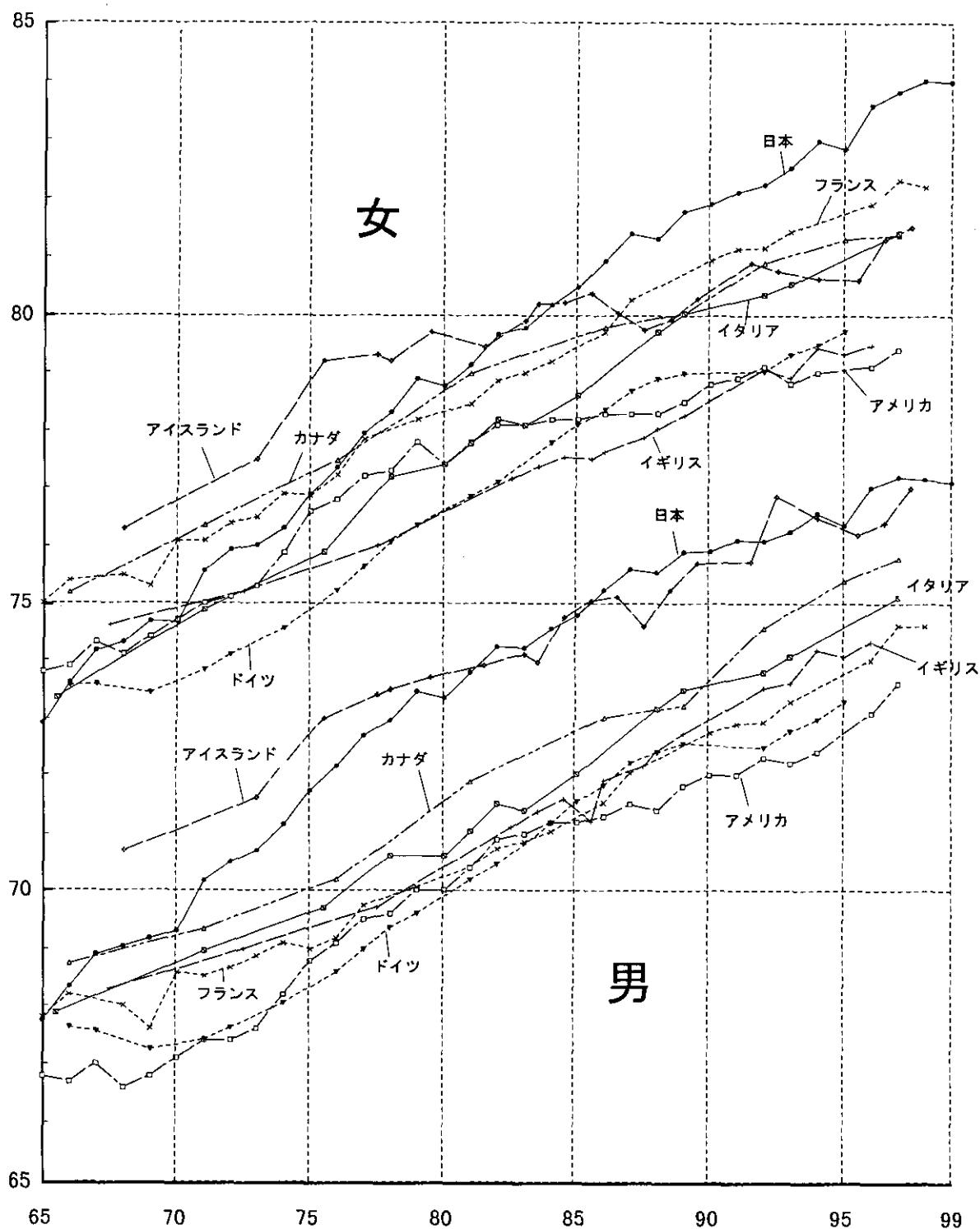
また、0歳における3大死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）による死亡確率は、男女とも5割以上（男57.3%、女55.5%）となっている。

4 3大死因克服時の平均寿命の伸びは男8.52年、女7.79年

特定の死因が克服されたと仮定した場合の平均寿命の伸びは、0歳では男女とも悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の順になっている。3大死因が克服されれば、平均寿命は男8.52年、女7.79年延びることになる。

諸外国との比較

平均寿命 (年)



(19・・・年)

注 : 1990年以前のドイツは、旧西ドイツの数値である。
資料 : U. N. Demographic Yearbook, 1997, Special Issue 等

(参考)

簡易生命表について

1 生命表

「簡易生命表」は、ある1年間のわが国の死亡状況が今後変化しないと仮定したときに、各年齢の者が1年以内に死亡する確率や平均的にみて今後何年生きられるかという期待値などを死亡率や平均余命などの指標によって表したものである。

2 基礎データ

簡易生命表は人口動態統計（概数）及び10月1日現在推計人口を用いて作成している。

（参考）完全生命表は、人口動態統計（確定数）及び国勢調査による年齢別人口に基づき作成している。

3 死因分析

(1) 死因別死亡確率

ある1年間の死亡状況が一定不変と仮定した場合、ある年齢の者が将来その死因で死亡すると思われる確率を表す。

(2) 特定死因を除去した場合の平均余命の延び

特定の死因がなくなったと仮定した場合の平均余命の延び。この延びはその死因のために失われた余命とみなすことができ、その死因の平均余命への影響力の大きさをみることができる。